

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372401028
法人名	社会福祉法人 創友会
事業所名	グループホーム 慈幸苑
訪問調査日	平成 20 年 3 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 17 日
評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	4372401028
法人名	社会福祉法人 創友会
事業所名	グループホーム 慈幸苑
所在地	熊本県玉名市横島町横島2493-1 0964-25-2030

評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年3月14日

【情報提供票より】(20 年 3月 3 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 4 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 人 9 人		
職員数	7人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.3 人		

(2)建物概要

建物構造	木造 造り 1 階建て
------	----------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 200 円 夕食 350 円 または1日当たり 1,000円		350 円 100 円

(4)利用

利用者人数	9 名	男性	2	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低 77歳	最高 91 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	安田内科医院 にしむら歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有明海を眼下に望む山の中腹に位置し、日当たりの良い南向きの居室やホールで思い思いに過ごされている。職員は理念に沿ったケアを実践し、自由な雰囲気の中に入居者の思いを尊重した生活が支援されている。その一つとして母体法人の協力・見守りが得られ、入居者の行動範囲が広がりストレスを感じさせない生活が特徴となっている。又、家族会との関係が構築され意見や要望を活かし、ケアプランの担当制と評価を毎月行い、個々の現状を客観的に把握した個別介護計画が作成され、活気ある日常生活が営まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域との交流を改善課題としていたが現状は地域の過疎化の影響による行事の減少により老人会との交流は果たされていない。しかし、そのような現状の中、小学校との相互交流、ホーム行事に近隣との参加を得ている。又、運営推進会議の委員である社協職員よりアドバイスを得たり、「苑便り」を通して啓蒙活動が見られることから今後に期待したい。
重点項目	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員経験年数に応じパートごとに作成し評価に対する積極的な姿勢が伺える。自己評価はホーム会議で審議し、問題点の抽出し全職員で解決を図ってる。また外部評価の結果は運営推進会議・家族会議で発表される。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、区長・民生委員・社協・家族会会長・市民生活課の参加により2ヶ月に1回開催し、ホームの活動報告をしている。特に今後の地域との交流、特に老人会を通して連携を図りたいが老人会の活動が停滞している現状の報告により、「苑便り」を社協に置く提案と協力が得られた。また外部評価の結果を報告し意見をいただいている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームにはゆったりした空間と家族が気軽に訪問しやすい雰囲気が漂っている。家族の訪問も多く、職員も笑顔で応対する姿が伺われる。家族会会長が積極的にホームの関わっていることやホームと家族との信頼関係も構築している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事が減少するなか、近隣住民とはホームの畑の耕作には自発的な協力を得たり、野菜等の差し入れ等苑深まりを見せている。ホーム主催の夏祭りには近隣からの参加や小学校の運動会への招待等により一層の交流を図っている。今後も地域との関係構築に努めていただきたい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念が作成され、入居者個人個人を尊重し、能力に応じ自立した生活が送れるよう家庭的で、ゆくゆくと穏やかに暮らせるよう支援されてる。	○	地域密着型となり、各種行事の充実を図ることも地域と捉え支援されているが、更に地域生活の拡充や地域のなかでその人らしく暮らし続けられることを支援する具体的な理念の検討を望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関・スタッフルーム、勤務表に掲示し、常に理念を共有したケアが実践されている。特に新人教育では管理者が理念を念頭に話しかけ、ケアプランに関して援助目的・方法に理念を生かしたプランが策定されている		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会会長を介して、地域の老人会活動に参加依頼しているが、現状は老人会の活動が停滞しており、積極的な活動まで至っていない。近隣の住民とは交流が深くなり、ホームの畑の耕しには自発的な協力があり、また野菜等の提供がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員経験年数に応じパートごとに作成し評価に対する積極的な姿勢が伺える。課題はホーム会議で審議し、問題点を抽出し全職員で解決を図ってる。また外部評価の結果は運営推進会議・家族会議で報告している。	○	自己評価の項目の考え方について、再度勉強会を行い、全職員の共有化が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長・民生委員・社協・家族会会長・行政より市民生活課の参加により2ヶ月に1回開催し内容はホームの活動・外部評価の結果を報告しており、ホーム運営に反映させている。「苑便り」を社協に配布することにより地域への啓発に繋げるなど、質の向上を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員を夏祭り・敬老会に参加を促し実情を知ってもらい、アドバイスを得て入居者サービスに生かす取り組みを実践している。また運営推進会議への市民生活課職員の参加とともに、高齢福祉課・サービス相談員との積極的な交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームにはゆったりした空間と家族が気軽に訪問しやすい雰囲気が漂っている。家族の訪問も多く、職員も笑顔で応対する姿が伺われる。管理者は入居者の生活状況・身体状況の報告、金銭管理(2名)の入居者家族に対して金銭・領収書の確認と押印をもらっている。また、遠方の家族に対しては、定期的な「苑便り」の送付とともに必要に応じ電話・FAX連絡がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会長が運営推進会議の委員であり、ホームと良好な関係が保たれ、家族会会長として、他の家族の代弁者的役割も果たしている。管理者も家族との交流を通して得た情報を支援に生かすなど相乗効果となって表れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は法人内で実施されるが、職員の特性・性格を加味し、また事前に自己学習を十分行い、事前体験をしていくことで入居者のダメージを必要最低限にとどめている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の研修教育委員会の研修と新人教育による研修(接遇マナー・ケアプラン・疾患について)ホーム職員の企画による研修計画が実施されている。又、外部研修に積極的であり、参加した職員による伝達講習により、職員の対応に変化が見られるなど効果が発揮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名市のグループホーム協議会を通じて研修・交流を深めている。管理者自身、個人的に見学をし見聞を深め、自身のホームと比較検討している。	○	更に人事交流を検討していきたいと意欲的であり、実現に向け期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に連絡があれば食事や宿泊体験も可能であり、体験入所を通して、入居希望者が違和感なくスムーズに入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者とのコミュニケーションを図り、人生の先輩として敬い、職員が日々寄り添い傾聴することで、入居者との支えあう関係を作り、入居者の得意分野が発揮されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の能力を尊重し、適性と趣味・希望・趣味と楽しみを生かした活動が盛んに行われている。職員は日々の会話や表情から思いや意向を把握し、本人本位となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プランは担当制で、手書きにより作成する事で職員の意志向上を図っている。入居者自身の希望・心身の状況・家族の希望・職員の意見に応じて作成され、1ヵ月後とのカンファレンス・モニターリングを実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	評価を1ヶ月に1回行ない、変化が生じた場合その都度見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や馴染みの美容院・受診対応など必要に応じ柔軟に対応している。母体施設の車使用により季節に応じたドライブなどの外出も支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の受診や嘱託医の紹介を行っている。週一回の訪問診療や家族・職員付き添いの受診が行われ医療との連携が密にはかられていることが入居者・家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期については事例をあげ説明している。日頃より医師・看護師・家族との連絡が密にとられており本人や家族の意向を尊重し終末期の支援を行う意向である。運営推進会議でも母体施設の副施長より看取りが可能であることが説明がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修やホーム会議にてプライバシーに関する研修や勉強会の機会が持たれ周知を図っている。排泄時の声かけや居室への入室も尊厳を大切にされた対応です。ケース記録記入はイニシャルで行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に応じた快適な暮らしとなるよう本人の希望に沿ったその日の生活支援に努めている。食事に時間のかかる入居者へも優しい声かけと見守りによる支援が確認された。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の冷蔵庫の中や入居者の希望を取り入れての献立は、沢山の食材が使用されている。行事や希望により直接市場で仕入れた新鮮な刺身も提供されたり、料理にあった器の使用やテーブルに飾られた花など楽しい食事につながっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月～土まで基本的に夕方から夜にかけて家庭での生活と同じように夜間入浴を支援している。ゆずや菖蒲湯などの季節風呂や晩酌される方はその都度支援したり、入浴拒否の方へも職員の言葉かけやタイミングにて最低週三回又は清拭を取り入れるなど個別に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	基本情報の中でそれぞれの生活歴や特技を把握し生きがいのある日々の暮らしの支援を行っている。ご仏飯の上げ下げ、供花の水かえ、入浴の際のお湯入れ・夕方のカーテン閉め・足拭きマットを敷く係り・菜園肥料にする卵の殻砕きは一人の男性入居者の居室での楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や体調・天候にあわせ食材の買出しや散歩・併設事業所訪問・隣接母体入所の夫・妻の面会は毎日の日課となっている。訪問当日はあいにくの雨で「今日はあっちに行かれんな～」と残念がられるご主人の言葉に毎日の面会を支援するホームの心のケアの確かさを感じ取れる場面であった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでいる“3.ない主義”の一つ“鍵を掛けない”を日々実践している。訪問当日も玄関より面会の家族が実家に帰ったかのように気軽にリビングにこられ楽しく談笑する姿に日常のホームの姿を伺い知ることができた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いのもと、昼・夜を想定した防火・非難訓練や非常災害設備の使用方法的徹底も随時行ない、入居者の安全に努めている。又、訓練終了後は消防署より講評を受け次回への取り組みに生かしている。	○	今後も隣接施設の協力と地域の方々の協力を得ての訓練実施の働きかけを継続して行っていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は毎日記録に残し健康管理を行っている。水分は三食時・おやつ・入浴後・その他必要に応じ声かけにて支援している。食事形態は刻み食やとろみをつけたり二度炊き、食べやすいようおにぎりでの提供など個別対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関をはじめ台所やリビングなど至る所に生けられた季節の花や共用空間に掲示された入居者の作品が温かい雰囲気を醸し出している。リビングに設けられた上がり壇の和室には仏壇が置かれ入居者の心の拠り所となっている。静かな環境のなか、冷暖房に頼り過ぎず自然を大切に居心地よく過ごせる配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと馴染みの家具やテレビ・好みのカレンダー・写真などが持ち込まれている。ご夫婦で入居されている方はベッドの寝室と一部屋を居間としコタツ・テレビ・日常使用する小間物が本人の使用しやすく落ち着く場所に置かれ、まさに我が家に居るような環境である。どの居室も眺めよく定期的な換気により匂いや空気の澁みがないことも居心地のよさに繋がっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム慈幸苑
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	玉名市
記入者名 （管理者）	牧野 照代
記入日	平成 20 年 2 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域へ理解を求め、地区行事の参加、グループホームの位置づけ役割を地域の方々に理解して頂ける為の働きかけを行い、地域行事や日常の交流を深める。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念を共有する為の専門性の充実を図る。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	認知症を理解頂ける様ミニミニ講習会の開催
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	建物が山の上にあり住宅地と離れている為近所付き合いは難しいが、散歩コースであり途中、気軽に立ち寄って頂ける様な雰囲気づくりと知名度を高めたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	介護教室等日頃お世話になっている地域へ還元できることもやっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進介護や地域に住むスタッフとの情報交換にて福祉に関する事で困っておられる方に情報を提供し、困られている方へ少しでも力になれるよう心がけている。	○	独居で引きこもりになっておられるお宅に利用者と共に出かけ話し相手の機会を設ける
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を自分達の1年間の集大成とし評価を受けた事をアドバイスと捉え前向きに質向上へ向けている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では出来事報告とし、前回の会議後より当日迄のホームであった事を「苑だより」を基に説明し意見や質問を頂き、スタッフへ伝達しサービスの見直しの1つとしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設事業所より町内へ出むかれた際は情報を共有するようになっている。	○	市町村担当者と共に質向上への取り組みを心掛けたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご家族と話し合いながら必要のある方には情報提供行っており利用されている方もいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	互いに報告、連絡、相談を行いケアの充実を図り、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にしっかり不安、疑問点を傾聴し、苑での理念とその人らしい生活を送って頂ける様、サービスを提供していくことを説明し、理解を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が訴えのあられる際は、ゆっくり時間をとり、寄り添いながら傾聴し不満等を取り除ける様努めている。		日々、安心して過ごしていただける様に場を設け、傾聴に努める。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時スタッフが行っている。又、定期的な家族会や苑だよりで現状をお伝えしている。金銭管理は必要に応じ事務所で管理することとしている。		県外におられる方、又状態に応じ電話やFAXで報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会又は面会時個々で話せる空間を設け不安・不満の解消に努めている。		定期的な家族会や面会時に機会を設けている。または電話、FAX等で行っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議や日々業務の中で各々工夫や意見がありその都度変更し実践に生かしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフ間で話し合いながら上手く調整に努めている。		状況に応じて臨機応変に話し合いを行い柔軟な対応を行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への不安・困惑に繋がらないように馴染みのスタッフと共に柔軟な対応を行いながらサービスの提供を行っている。 母体である慈幸苑への訪問は日常的であり行事も合同で実施する事が多い為、創友会全職員がグループホーム利用者と馴染みの関係にある。		マンツーマンでの対応等、その方に合った対応を行い利用者への不安を防ぐ努力をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画を立て2ヵ月に一度の研修を行いトレーニングに努めている。 苑外研修への参加。		定期的な研修、ホーム会議を行い職員の向上に努める。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名支部G. H連絡協議会が2ヵ月に1回開催されており、玉名エリアの同業者の方々と質向上に努めている。	○	地域でのネットワーク作り
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	取り組んでいる。		定期的な休日を過しストレスの軽減に努める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の向上心を働きかけ意欲を高める為の働きかけを行っている。(声かけや人事評価)		運営者は職員一人一人を把握し持てる能力に応じ個々に役割を担ってもらう。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の意思を尊重し、安心して頂ける様な聴き方、そして求めていることに、より近付けその人らしさを出せる様努力している。		話し方、接し方にも気配りを行い意志をしっかりと把握し、受け止める努力を行っていく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安・要望を聴き入れ、本人・ご家族お互いが安心して頂ける様受け止める努力をしている。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番何のサービスを要するか本人、ご家族の心境、要望を把握し、サービスの提供に努める。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者を尊重し、その方に合ったサービスの提供を工夫し、まずは体験して頂く。又スタッフが間に入り、他の方とのコミュニケーションの援助を図りながら徐々に馴染んで頂いている。		家族ともじっくり話し合い、本人が安心した時間を過ぎて頂ける様他者のご家族にも相談し協力し合っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人様の喜び事は一緒に喜び、話題を共有し、他者への配慮をし、マンツーマンでの対応や時間をかけ、本人様の困り事等を知り、よりよいケアに反映させる、人対人の関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には日々の様子、変化お伝えし、又、一緒に考えケアに取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人様の思い、又家族の思いも正確に把握できる様スタッフも含めた時間を持ち、支援している。利用者と家族との調和を図りながら。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	母体の特養施設へ入所されている配偶者への面会を行っている。近隣の施設入所者への面会も実施できている。生活歴を把握し、努めて家人の名前を忘れないような声かけや面会を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	移動時には利用者同士助け合われる姿も多くみられている。席位置を配慮し、トラブル発生を未然に防ぎコミュニケーションがとれる様に仲介している。	○	言葉でのトラブル発生の回避により一層努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に移られた後も訪問し、声かけ・会話の時間を持つよう努めている。	○	移動された後のフォローも大切にする。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気分の起伏に応じ、本人の望まれる環境を提供し、寄り添っている。 共同生活であるも、個々の暮らし方、思いに沿ったケアを行っている。		生活のリズム、気分の起伏に気づき、臨機応変に対応している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所訪問も含め、家族からの聞き取り、情報提供書の把握に努めている。		在宅での生活習慣を考慮し生活の構築に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所者より詳細な記録を詳細に残し、一人ひとりを理解するよう努めている。		その人その人に合った作業や制作物に取り組んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフはホーム会議の実施。 家族は面会時や連絡を通し、相談等の話し合いを行っている。		本人、家族からの情報を基にホーム会議時の決定事項を実践しケアを行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直し、変化が生じた場合は、その都度話し合い本人様の情報共有している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録に詳細に残し、ケアプランの評価に活用している。		個々のケアプラン充実させる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養・デイサービスの協力を得、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小中学校の行事にも参加している。又、運営推進会議も行い、地域の方との情報の共有あり、当施設の各行事には多数のボランティアの参加あり。	○	地元の小学校の学校公開デーにも参加出来る体制作りに努めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	帰宅願望の強い方についてはタクシー業者と連携をとり自宅まで寄られ、又送りをお願いしたり、安全の確保に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	該当者がいない為、現在のところ動いていません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/WのDr回診(嘱託医) 入所の段階でこれまでのかかりつけ医への受診、嘱託医の紹介をし、かかりつけ医の受診の支援をしている。		必要に応じ回診日以外での受診

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医の判断により、治療がすすめられている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体である特別養護老人ホームの看護師による医療連携体制が整備されており変化や異常時は早めの対応が出来る。		24時間、365日体制で対応できる連絡網が確立されている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院があった場合、認知症が進行するケースがあり、病院より連絡がある為嘱託医と相談し可能な限り早めの退院を実施。		入院の場合、退院まで部屋を空けて待っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	電話・文書によりその都度連絡している。本人家族への意向を尊重しその人らしさの終末期を迎えられるように支援。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師、ナースと話し合い、家族へ報告を確実にやっている。母体の特別養護老人ホーム看護師が常に利用者の状況を看っており、家族の希望があれば終末期の看取りが可能である。平成19年度は家族の希望によりグループホームで看取りを行った。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	慣れて頂くまで本人、家族からの情報を聞くことに努め、なるべく付き添う。必要な場合は家族の面会をお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	名前を呼ぶ時は名字を使うことを基本に記録にしている。 書く場合はイニシャルを使う。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定しやすい問いかけを工夫し、本人の希望に合う様努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時その時の気分や状況に応じた働きかけをし、できるだけ希望に沿う事が出来る様、その日の生活支援を努力している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月2回訪問の理容室が苑に来られ実施。美容院を希望される場合は近隣の美容室を利用。又、衣類のコーディネートや外出時のメイクにも身だしなみやお洒落を楽しんで頂ける様努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や作業内容に応じ、できられる分野を担当頂いている。 食事作りは日々の生活の中で当たり前となっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は行事等の時にも提供、これまでの習慣を尊重し、晩酌の方もおられたが現在は希望みられず。喫煙の習慣がある方も希望に応じ決められた場所にて見守りで支援。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	声かけ、おむつ外しパット対応、又は布パット使用。誘導ノートを利用し、それぞれの排泄パターンを把握し援助を行った上で自信へと繋げられる支援をしている。		入所者全員の24時間オムツ外しの実施を継続させる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月～土まで基本的に夕方～夜にかけて実施。家庭での生活と同じように夜間入浴を実践している。夕食時、晩酌される方についてはその都度対応している。		夜間入浴を継続させる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は湯たんぽの利用にて安眠を図っている。その日の状態により日中の昼寝の実施		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所者の方の過去の生活歴やレベルに応じて、一人一人の役割が生かされている。庭の手入れ、料理など。		ご夫婦がそれぞれの理由により特養とG. Hにお1人ずつ入所されている方、又知人がおられる方は特養へ自由に逢いに行ける様支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望や、個人のレベルに応じて、お金を2名の方が所持されている。欲しい物があれば購入される事もあり、孫の成人祝いや病院受診時の支払など、活用されている。	○	3ヵ月前入苑された方がホームの生活に慣れられ、1お金の所持について話され始めた為、家族へ伝えて所持できる方向で話し合っている段階、所持可能となれば3名となる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力のもと、希望に応じ美容院、買い物、温泉に出かけられる様対応している。散歩、併設事業所への訪問、特養に入所されている妻や夫の面会が定着しており1日の日課になっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年3回の家族会を含め年間の行事を通し、家族単位での外出も増えてきている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話がない為、併設事業所へTELをかける際の協力・見守りを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関周囲の花植え、野菜畑がある。リビング内にも和室があり自室・事務所も含めその時々思い思いに過ごされる空間がある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三無いロックを実践している。 入所者の方を尊重し、どこからでも出入りされる様なされている。家庭的な開放感があり自由に過ごされている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入所者の方、一人一人が束縛のない、自由な生活ができています。昼間は開放的に夜間は家庭と同様施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	トイレ確認、歩行時の見守り等、目配り・気配りを行い、安心して生活が出来るよう、本人のプライバシー、安全配慮を行っている。本人の意向にしっかり反映させケアプランに応じ実践している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の方の力に応じて一緒に付添ながら工作時のはさみの使用や料理をされる時の包丁の使用を把握し支援している。		本人様の認知度や使いこなせる力を把握し支援に努める。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	窒息、火災は定期的に消防署からの防火訓練、応急処置を法人での勉強会で学んだり事故再発防止に役立っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会の実施、講習会がある、状況に応じ連絡、報告の徹底がなされている。医療連携体制がある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練、避難訓練等定期的に実施し、安全に誘導にあたる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の面会時や急変時のか家族への報告をしている。万が一の対応としてご家族への話し合いや説明を大切にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のVSチェック、異常時は日中での再検を行ってNSへ報告し医療機関への受診に繋がっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康手帳を利用し一人一人の既往歴、内服、副作用把握に努めている。臨時薬、薬変更の際は確認し合い、情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ラジオ体操をし、個々の身体にあった散歩、菜園の手入れなど身体を動かしてもらっている。水分補給と適度な運動又は腹部マッサージを行い、出来るだけ自然排便を促す。困難時は内服の調整を行う。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の生活状況にまかせているが、就寝前・夜は必ず声かけして歯磨きしてもらっている。毎食実施されている方もおられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時々、臨気応変に、二度炊きなどをして提供している。ご飯の量は一人一人に提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	トイレのタオル、洗面所のタオルは朝・昼・晩、一日3回取替え、その都度消毒液に漬け込み洗いをしている。感染症予防マニュアルがある。手洗い・うがいの励行。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器の熱湯除菌に努めている。タオル類もこまめに分けている。食材はまとめて購入せず頻回に買い物にでかけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般の家庭と同じ様な建物の作りとし、花を植えたり、ものを置いたりし興味を持って頂けるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場には季節感を出せる様、カレンダー、作品を掲示し、自室にはその方にあった家庭的なダンスを置いたり写真を貼っている。	○	テラスからの出入りの際、手すりの装着。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の思いを優先しながら利用者間のお互いの居場所を提供、テラスであったり、事務所であったりする。和室やテラスでその方に合った時間をゆっくり過ごして頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる空間作りとして利用者や家族の方の希望によりインテリアや装飾品の持ち込みもお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の体感に応じ室温調節ができています。又、自室におられない時間帯、掃除時、日中の気候に合わせています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、カウンター、テーブル、家具、壁伝い、狭い空間であるがゆえに身体機能の維持と向上がなされている。本人様が動ける様にテーブルの位置等を工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のできられる力を把握した上での支援を行っている。 例:トイレ、自室のネーム、入浴日の看板で曜日の把握ができています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭苑に菜園があり、季節毎にできる収穫物を楽しみにしておられる。庭苑を建物沿いにシルバーカーにて回られ歩行訓練の一つとされている方もおられる。ベランダから景色も眺められ、楽しみも提供出来ています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の皆様が集うリビングからは、横島町・有明海を一望でき、雲仙の雄大な姿も眺める事ができる。夕方には日の沈む瞬間を眺め、一日の癒しの一つとなっている。自立支援を基本にお年寄りの今を大事にした取り組みと実践がある。